眞原町人帳

582
1上

門田文庫
雜 分82
巻 1

嘶雪堂

王人不相応

茶井後

門田文庫
門田文庫

町人嚢底拂巻上

政重

人のいまいましきなりとはそいまれいなる巻
かてもあらんかるかりと此聖語久しく耳ふ
れわたるすべあり陰しく扶わくれ年月を
をぐしたりあるとしく耳順にしたがうこころ
此身のうとあるかしかれるこさ間扶をる
百千の古言もあるとくきれとくあれ他して
櫃をとらえて珠をうしなう人を恨み扶かうるふせめく
そなぶ後の忘れぐさあるよ直さの一文字衣
乃ものを　ちあていうるし世なかの悔さ身を

法そ人[illegible]をゆしひきれいれもひきを直て
家童の袖よりいを失てるの[illegible]いてるも
むのくりてふて世よいとづうくぎ
直の字に此國の言葉はくるふこりのきかをを
とぐれてくいかくらあるをくひれ曲まねそう
するをくいい本りをの誠なるかくらるぐちく
とい身のうをさかれ四まき紙をとて紙いをの
ぶなるやをのくとのはくきくよりくあ
てて直つる處あり
直い天理ちり問ふうそで直くんば千萬人といふれ

吾ゆしひこいをつくく天理を抱きてちり天理の味
方よい對とる歌あるくく三德五常もみを直の
異名なるを如しむべなるれ萬國の道いつまう
質直のとぐ紙本をせさるべき天地日月星辰
かくるくめぐり木火土金水おのく相生し相尅
しおこるいれてやむ時なれいみる天ちの直道也
よいるれるあかくしよいをのるあふくに直き事
そのやにあるをのうくはちかくにあるに都て人の惡を
かくるあるいさび直きみちるの中にあり是人れ本
心自然の惻隱ふ[illegible]せてちり此てをいる紙をも

欲ふかく己れを奪ひて動もすれば人をうらみ歌さわ
いとにおゝ直き木に曲まこの枝もある世なりと人
をばゆるすた物のまこと敵と事をもいと直き事
いふなかれ

本朝の事い神と称しこの三ろの外いまだいかなる
ことはなくしてかりそめにも此国に生れ出るものは
此国をつくれる理を奉ぶ給ひしうの法を人のまに
して世を用ひらるゝを慮つて此国の人は心
うるべきすべてこれなりて世をもちひ人ふ
もてあそびめてらるゝ人乃国より傳え

あらしまこいでもてひろめ此国水つちのもの
ばかれとゞこれうはりゆくさ陸人のまわれあり
ぬやまわすることなりゆくあれいぬされ屈こと
なれる神乃ひざなるべしはこれば此国よりひまれしむ
まれる人なぞうい此やまわれ姿とわくこやまわて
こうこれいこひて和くよこうこと姿なようと
いこを文字い事いかりめれるすぐこそ
らひはこゝのぐいいるくとぐこうはりきて
やまわてりこひこりの此のめるい大うこ
異中こゝ人こてやまわてひざよい国ひぐ巳そぐ

めつらしきをこのゝて見給よりこいしむるゆゑ
あるべいでいをゝをゝをゝぐ清くやとりるゐんぞ水
土乃理りふうゐゑすぐさふく國人乃益も考うり
なゝ詩と文ゆれゝ中いとうゝまつてもし
ゐれどをのづゝ今いかゝやまをうのとゞく
ゆれゝうゝたされとゝもうゝこゝ人乃ゑゝい其國の
風雅のすぐ紙もて絵をゐゝかゝゐんゝやま
と乃ゝい和奇いゝよ乃と詩も此國のすぐふ
はくまれぞゐまゝわも和ゝき安さなる此
ゝいりあゝびりゝこゝ人乃詩なりた此國そ

和國の歌ゝて吟詠ゝてあゝき紙いかゝとすぐ
ゝゝゝはゝみゝも口くゝのゝゝ是ゝゝゝたゐ
ゝゝあゝりゝゝこゝ人乃此國ゝゝゝゝゝゝけ
子い親の姿紙ゝて聖のゝゝゝれいゝゝと
ゐあゝゝしゝゝき紙何ゝゝゝあゝる姿形い
おのゝゝゝ悪しゝあゝゝや上ゝゝゝあゝ
ゝゝゝ容紙ゝゝいゝてゝゝゝゝゝゝゝゝ
きれぞをのゝゝれゝゝゝゝゝゝ其國ゐ
ひゝれゝゝいゝのゐ乃ゝゝゝゝゝゝゝれぞ
天地乃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

もんこ此聖の教いい文字をもて曉し吾国乃神
のをしいやまや語りありて文字ないもの故にうり
らひいこのもの有りてそ世てぐうてより此国乃
学びをる人も文字にのみ心をきて語葉の
そぐらを尊ぶあるを人をなをゆへ名乃實を
みうれて此国乃うんちゆうへくらやゑ孔子
こ政をやんよいうるしび名ゑ西へきんをのく
まういえんや我国乃やまやて葉い名實乃
葉をげんぐいうらうぐきゆりて此身をへと
ゑはうこ事ひとい一つをうえ萬物第一は

夢日そ尊乃の義天地乃至尊日の精霊ら
乃名なり此故ゑ人は神魂い皆火氣ゑ屬をり
もうこいそも此理あるや日の字は文い圓形
のゆに一は字なりうや何をは国をそ人を
天地乃霊ーー日輪の德とうるへうとする
ゑや人ゑ一を添くゑ大ゑ一をそへ為ゑ大と
をうへこ大地ーー二ゆるあ依相離ゑ事をる
を示をゆ此理をうて此国の神道ーー唐の聖
教ーー超さ別ゑあるうて伝をうめ
此国乃主をる人をきみしいて事い始祖いざゑは

いざなぎ尊のきこしめしてのたまはく
きよい陽音木氣みい陰音水氣なり陰陽の
神德をもつて國土萬民乃父母となり給ひ
一切萬物をそだてやしなはせ給ふと君とくだくに二柱
乃清神此國草木をもて產出し給ひしと
いへども廣大仁德乃義をもや此なり神と
君とこのよをおさめ給ふ此國の道なり
こゝで國家を君とする人此名紙を敬ひ給ふと
法をもつていへ
又とかぐとつひ毋紙いろとしてめでい香ふせ

いろい色なりかぐいうぐひすして嗅で匂ひをもつて
いろ素いとして色紙を香い陽ものして貴くく
色い法ものを賤し又い匂ひを尖とびて氣と
清うもちひるべくく母い名紙愛して中紙よ
ろこびしるがゆし氣いをう裏つぎ血い母ゐ
うけつぎされば身體髮膚皆父母より
受をうものなれば鼻と眼とは百體乃尊
とし耳い是を洗うも鼻口氣を通して香
味と知眼耳精を通して色彩と知る父母子
一體乃理なしべし子いこゝ乃下略也又母

の氣乃凝結をしてあらなり
夫と背といひ婦を妹と
夫婦といひ日月といひ陰陽と先うて妹背といふ
ゆへあら事なんいもいひ女乃通稱ておくこと
若こ紙いつて夫よ對していつ紙なり背いはる
いらせなりせるこもいつ女こもくなり
此こひくい別乃道ありて押んぐしなをいつて
妹水雄火を妹こて相對をいつぐも水ハ、
火紙魁部ゆる事あり火ようむくるぐ故ゆ
水火の氣平和紙得て萬物を化ましおこと

女よりひくれ別義あるゆへ夫婦和ぎ家へ
そむるこ所乃男女いりもの乃ちやもおこて生に
よりて知へ又段の部れ義理もありて背み止
やうゆもあんう
兄と弟こいひ弟を妹こくこいて上方よいあふあ孫
道用こてこの紙いつ後よあふこは兄こして
男子紙いひあ孫こい姉こして女紙いつ此故
こえいあ孫の反語なんう男子の子ひこ紙えを
いひ女子乃この紙いつえこいて妹これ妹こ
をこいひ女ひ妹こ紙いつこまりうみい

子のかしらおもくいおもくしてよりおもくを
云いつり十干の陰陽を分ちて兄弟とし又
つゝ立給おのく先後強柔ありて十干十
二支皆陰陽を分つ所い先後陰陽あるを
甲乙といつゞ如し兄乃甲い弟のひと脚を
書ひ弟乃乙い兄の甲にうひすたるゝひ兄
とく是友悌の道をのづゝ知る理ゝ知べ
きなり
家乃老臣又い町屋村里の長たる者伝神子
といへる武書ゝ考へるゝ養老年中の比

道君氏首名といへる人あり筑後肥後乃守
ゝり此人律令に委く仁政を行ひて民を恵ま
陂を築き池を鑿ち教を垂く民を富饒ゝし
百姓とゝの如くをゝうべ卒後筑紫の百姓号長
仁徳を志ゝい祠堂伝建て神ゝ祭りゝ
うゝ神ゝるれ号い神ゝゝるれ詭ゝ
ゝゝ此号筑紫ゝ多ゝ郷里乃長伝称を
ゝ神ゝ神ゝきゝいゝ詠ゝ此首名より始る
ゝゝゝ詩賦の義なり
註言ゝ此所の目代ゝ名のりて出るゝゝ

かゝる顔なるおろかもの也都て世の中に人たるものを僅かに長ごとの事あれいやしき所の人を慢ごとる者のいはゆるふたりて身はおろかに人にまさりたるものなれとも是はまことにおろかなるものなれし教訓おろかなる自代と云へいふへい國家起敬ろ一方なる一人は自代と置く百姓をおさめ一方乃村里と仕配をし心其自代乃長百姓方屋と号をもつ今村里の長と云なしいつゝ郡の内の郡を地頭の目乃代をもつて事を行ふ人をしい正直を敬ふ者の名を者い農民の害

となりて百姓困窮ふ及ぶものなりとゝや狂言ふもとる處い上乃目をもつといつ所名ふられいどこ氣まゝなる目代方屋をとゝづりめをもつ外のいはゆる早役の人れうの下に傲ふ有る所を都る事ふけまゝ俳優乃狂言ふてよやく上を欺人をもつ外はまをしいやゝぶ為ものなりとゝや

法師が毎しつゝ狂言い醉狂をもつ人をいまゝやをもつと乃ふ人ふ狐狸よりつれをもつ人いをもつて後を諸人いゆゝ一分をもつれて人情ならひもつるゆゝど

酒をうけられて狂乱きゝ醜態のら人もいつも
ものどうの人もいはものでくにて酔ういうと色
るものゝ多ゝ中分紙先ゝるゝい狂ゝ酒ぬと
何そおゝゝんはゝぐゝ酒ゝ酔ゝ人とんゝふ
おのゝく中分乃病とあゝいとちう生得柔和正
直ちゝ氣質の人いるものゝよまゝぐひなゝしゆすき
事あゝて酒乃為ゝ氣血うゝゝれゝよゝゝゝび変
ひ葬ゝゝてうゝはゝ中ゝれゝ附い寝てひゝゝゝゝゝゝし
獨ゝゝゝ或い氣質はゝ情こゝく円分ゝ高慢ゝゝて
瞋毒用ゝ蟠ま所人酒酔ゝ依ゝく氣血浮ゝ

勢ゝ円分の毒氣分ゝ出怒氣傲慢就ゝ
ゝゝれ何乃事ゝれゝ罵詈ゝ座席ゝ人ゝ欲と
ゝ基ゝ河い勢力を振ひゝゝ垂禮狼藉た
ゝゝゝのゝ平生の人品威儀温良ゝゝ
ゝゝ一時ゝ亡失ゝ成ゝゝゝ上戸本性ゝゝ
い悪習ゝゝ此ゝゝ聖人ゝ佛祖ゝ飲酒ゝ戒め
基法ゝゝゝ末代乃儒者佛者酒ゝ嗜ま
ゝれゝゝゝれゝ人ゝゝゝ吉田乃
法師下戸ゝゝゝ分ゝゝゝゝゝゝ
ざんおのこいむ乃盃ゝ屋ゝれゝゝゝ書ゝ

ふてあはいすれたち作いせりとけうんふうて興ど
ふ世くい成ーまうはくれる草紙を河の人にすて
わそびけんう多めに偏屈ちくふて使ひくまうんを
して先桑端よ興ある神を書う奥よいう酒と
色くれいまーけうなもわひどふう人桑端の神と念
を親ーて奥よ白紙留う事ふし後文神文と債
けよ多くびこ百年いまよ世ふ幾人をううこと
ちひきうんくいてくーいてくー
人の遍ひうてくやを事ある紙うのてくうけ話
くくきい稀よたくさいくくらるくるひどひ

わくそい雅ん事ふ世のふくくうふ作ひさう神ばいて
ふ新くくよーやくくうら話うすしば一家の葉面で
多ちうびきて後れ禍紙ちくびふし見雅ふー何
うくそう世さ海くげくまくうけくわをくそ人い若
き河くう海くくーき聖のくふ理くくの世ふうをびう
をを新ちうて世天ちう陰陽五行月日ふ理くを
など夢くふのふくも心ふ世ふへ作うなばくふあ
さ海ーき惡ひをばわうれぬびきうわくくー
くくふ人ふ神くを呪ひびうちうい暗さくうれ
わびれーけくう神てくくは情日本い神国世い

呪ひといふる謡よい世のそう庭ごくろもあるゆんと
いふ〜呪ひの主意い氣血ゑ血ゑ血ゑちごゝ
乃術ゆうこ氣血とあくゝ快くとる呪ひ乃第一い
藥ゑ用るゆうこ灸ゑ針とゝて灸とするも呪ひ
ゆうこ按摩とゝて外よう一身をおでさすゝみ
い呼息ゝて温め或い息風と唱へけて冷めみい
嗜を繁く痛ゝ為ゝ行ゝ乃そゞひみゑ息呪
術乃根本ゆう神代乃呪ひ止ゑ乃法といふい
今の世乃祈念呪ひゝ為ゝ
世ゝゝものいまひとゝ事ゑ為き中に神代ゝ乃

放蕩ゑ為ゝ世乃愚昧のゝひ傳ゝ
し多ゝ草木の中に民家ゑ植ゑ為ゝ新
多ゝ世ゝゝ人ゝゝひゝい酸漿といふの紙家乃藩ゝ
婦人べゝ為を福ゝ為ゝ為ゝ為ゝ古き文
なゝの中にゝんゞゝ為ゝ家ゝ為ゝ
ゝゝ禍笑ゝ為ゝ思ゝ紙植ゝ為ゝ禍笑
多ゝ為ゝ紙ゝ為ゝ為ゝ為ゝ但神書の中
ゝは破鏡と唱ゝ訓ゝて素盞雄の亡ゝ為ゝ
大蛇の目ゑ為ゝて唱ゝ為ゝ為ゝ冊草
為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ

ゑぼうしてしかるべん福福のるまいあるべくして
柘榴を人家に植るゆゑと云人うり毋未央紙羊うり
て央災れしるあり此故うり人家に植とゝ新宅移
徙乃祝きゝは立花おしはなを事なく其家紙
客ゑるべくゝや是ゝ天漢神の師れ坊よ
はゝ給ひ師の坊れ靈の秘かを紙いまゝあり
を出りて清茶ちゝ柘榴乃実と噛くだ妻
戸よ吐りを給ひふ央婦くゝ家ゝもえわりし
とゝつゝ是紙央災の未ゝて忌事あゝん
今天漢神と信ゝまれ人一生柘榴實紙

啗事是神州の靈妙ゝ中ゝ柘榴而已央婦と
ゆ給ゝ央ゝ紙栗椋何ゝ怒りて吐て央ゝ
ちゝのひあべ是ゝ事まゝ酒きあゝゝとゝ飯
中ゝ閉石折ゝゝの物を吐りいて央婦ゝ
事ありない此神信仰乃人ゝ酒を用いと或い
飯と食ゝ事ゝ事ゝ人ゝ事ゝ柘榴紙き
ゝゝゝを折ゝちゝ是いまゝ代の人乃ゝるゝゝゝ
ゝゝ戸ゝゝゝ中ゝ央柘榴い己午の月ゝ新候
れのをきゝゝく赤く央の色小同ゝ己午ゝ央
ちゝ是實ゝ央是赤ゝゝゝゝ赤き義

われい実い白きう黒きも実あるもあり多くい
花白しも実くもふあれくの稀なりひとり柘榴
是なり固て深きの比れつるどうもみちのおく
うはくしいつれも其精氣大とうとあるまあつきも
大ようの木い石紙ゆくしくものちうふ柘榴いれと
このうり石い金氣ちうる大い金紙得てそうの
精氣強盛ちうことうあれくもしいくれう家屋
近く植うまをとうう故實ちうも菅神のゆくよ
いあるくざるくし
と櫻よい實ありくいくもも八きけくうのそくしよい

實白富ばうようくれふひくく富れ人のうちれ家
うい八実梅のそくい植ふくれうくるるれうの人の
大ようれいけくうい李流のかい種ばうきれくこれ者
て実ちれい文のくう多くて質ちれ人れかくく君子
乃敢へき處うれきうれるあくめそあ実ばでいどう
池をけるるるぐいい土水の氣よ者きゆく氣れうう
つくとてかひと空紙鄰ふ翹い木火乃くう氣紙
うくう居ままきゆくよ畫と專うけて夜内寢
是つのれ程ちうきうれ紙神くうく郭之のくぐいい
英紙專くうとて畫うくれ時ちい是て教へあると

いとも樹陰草しげきの下に居て夜高く遠く
響く蟬の聲あり行きて常の理を問へば答へ
て曰ふ人の国事を忘れ人の国事を忘れ我
国の人いかなる所業ぞ世間きゆるものとよろこびいさむ成
ゆくを驚の法ひなる公いさのこと愛さびて変
曰乃郭公とぬんとよろい帰去潔ゆして人の公
蕩うするや清が絶言う驚い夜なりぬべしぬぎ
しかく着よりれまして帰てうなさく郭公い夜
さとく裏さのこと帰て久しく世ものもとれとして
人よあり海く来ありしかめうり郭公は幸ありあ

ア神ようて郭公は陰気の鳥にて柔弱情慢の物
りやれのきて公そぐて得ど驚の巣ゆかに産
時ゆて驚と書いるやいつまて常の理にあり
さなりのて神ようきり蜀帝は魂しいこる
もあるまき来あくふりてちるへ世哀然有者
天地と変事は国いへり地震法水大風い天
気大過乃運動蠢物の抗気と制して平気ふ
帰ふの府ようり雷い雨蠢物乃蠢動と催し促し
地震い土中陽気乃大過を洩し洪水い万物
乃爆気と洩し困濁の気ふ法へ大風い暴

聖人道の乱紙制し難伏の乱紙難とみるべの
常事なれて天地間を知ることなしかるがゆえに人
かわりて見と言事をしらざるはおのおの用物紙
ゆえ窮屈なる故なり五行の生剋二つ有といえど
剋ならずして生ずる事全し生も剋ともあり又
剋とは生ずるなり生ずるは剋ずるものの
いえ界間万物情意ある天地萬物永世り
言ずよいあるべし
左傳に禍福無門唯人自招といひ又天作孽は犯
不違自作孽不可逭といえり古賢の誡め言

民日用の要文なり濫用古今に世もひわるべ
感応ありしとあるべし古人付伝る事なり
天作孽猶可違
所為ありそなわるべ家門業盛の素因積の善
自作孽不可逭
下ある禁うちるべ門ゆ事まべ有をてや廉ひびらるべん
賈誼服鳥賦に禍い福の所倚福は福乃所伏憂
喜張門吉凶同域といえり又同じ吉凶福ゆ
禍くは何ぞ紛ゆ縄に異なるべん命は不測
孰の其極をきわめ此一章深玄あるべ

書經高宗肜日小天監下民典厥義降年有永貪不永非天天民民中絶命といつり此句人事一切の要語にして一身者性を信て壽の長短正命非命あれども悟明とへ

楚辭に善いかにして名い虛しくすとへうに孰ぞ施して報ひあんぞ孰ぞ貴もて獲事わんといふ所まるの人世の惑に解に依り悟徹へ

詩小弁に君子無由言耳屬于垣といつり和信の語に壁に耳ありといふ此句もまた君子のふかく小人をいましめつつしむを

つつしむべし一言に身をそこなふ

今甚多くなるや

家語に孝子曰く支說者流於辭聽者亂於辭如此二者則不以忘といつり世の議論說法儒佛の傳等諸雜口說の膾炙ふして道德の損傷はあるべきなり市高の市びに利を爭ひ膾炙を侈り

同く云孔子のむつく喪聲之樂喪服之喪此之謂三喪といつり此語實に孔子の語にあらずして禮儀をあ

元人の戒とかたし又禮と肉とを而已とうて和と
捨るは病しとあるべくしるべし
曲禮に禮い妄ふ人に説げ[illegible]び[illegible]の費へをび
志いふて滿樂いふ極といふ又君子い不盡
人を歡とあん孤りき自ちう又禮い不忘真宇
といふまてふ思紙知人世を陶冶ちり
樂記に云く玉不琢不成器人不學不知道也
又嘉肴ありといふも弗食その旨を紙不知
といふ至道ありといふも弗学いふ善を
不知の警へ勸学は訓誨此自紙祖とへ

班固が云く安真所習數所不見終以自蔽と是
学者乃通病なり況や祖学は人を祖学の人い
いまを知識かくて蔽をを事和てをれ
博覽多聞の学者此蔽又ますますや
同書小獨学而無友則孤陋而寡聞といふ祖
学は人あるを人を祖学は書ををきをや
寡を友ををとしてい益友善友をを聞をを
況人を祖博学博識の数をいあを人い藝に妻
しく五倫の道と窮ひる紙博聞とをををい
善友を友を德業相勝を所事をく摺り已ぶ

えうなるに安んじて呂望ときの人は善道と謂
事寡きをもし孤陋として文華なれども
をいとはれば意の固偏野卑なるをいふ
なるべし
史記小樊噲曰大行は不顧細謹大禮は不辭
小讓とあり学者吾が行の懈る事あるを
己が非とする事わくるに此語を證とす今
の世の学者何等の大行大禮なる樊噲が
大行大禮といつるは天下を持つの志なれば
高祖をたすけて漢を興起せるは大行大禮の

ありなるべし今の人の大行大禮はいふやしいに
同項羽の名ばかり富貴ありて不帰故郷は如衣繡夜
行誰か知らんといつる後世人の口實とする句なり
その主意は二つあり一は實の君子なるは富貴は
して故郷よりの親族の今は恵を郷人の舊
恩を謝し孤獨鰥寡をもとめ人の主意なり
郷黨の人を親しく交禮数情の軍と畏伏せん
と欲して故郷を帰るは小人の主意なり此句又
朱買臣が語なり項羽と買臣の意は知がし
同秦本紀は前事之不忘後事之師也といつる

又漢書賈誼の傳に前車覆後車誡とあり同
意に句あり学者乃歴史を考皆此句に主意
夫子春秋乃作又是に教誨し給へり
董仲舒曰正其義不謀其利明其道不計其功
此句に仲舒の真儒なる事明らかなり是学
者の益なる所詰なり学べきなり又清献公乃
詰し行好事莫問前程と云へり同意なるべし
事に天理なるべし
易乾文言に同聲相應同氣相求水流濕火就燥
雲從龍風從虎聖人作而萬物覩とあり此語

をもつて見る所に萬物の氣かの〳〵類を以て相感
と悪人には悪氣逆〳〵善人には善氣逆と一念
之善に景星慶雲一念之悪烈風疾雨といる寔
に禍福に見つ〳〵招く此理影の如し
同坤文言に積善之家必有餘慶積不善之家必
有餘殃といる是善悪相感〳〵禍福自ら招乃
證文畏かつまれ聖訓なり但佛家の因果之義
と其解異なる處あり輕率に看過とすべし
同云く君子敬以直内義以方外敬義立而德
不孤とは内外の字初学語の事なれ此宿

儒の說を用ひ内外の文字ふ泥むものあるは
苦子義外乃說又他よりあるべしとて
同謙乃家は天道虧盈而益謙地道変盈而
流謙鬼神害盈而福謙是聖人乃訓戒忍べ
きものなり書大禹謨あり滿招損謙受益時
乃天道也云云又豊乃卦に言ふ日中則昃月盈
則食天地盈虛與時消息而況於人乎況於
鬼神乎といへり天地乃盈虛すら鬼神も遵る
事かゝ況や人なるふ物をや九龍有悔い
くんや萬物は物のそとや

同解乃六爻は貧且乗驕致寇至貞吝世間の萬事
みなおのゝ相應とゝ不相應とゝありて時とゝ不位と
かゝはりあるとゝ心金くゝ相應は肖きものゝ
ゝ不相應は貧しきものゝ敬とゝいへるふ吝き
は身を失ふ者ゝ貪りて財を失ふ者ゝ貧りて
富貴が眞似し賤きゝ人乃責たゞ内○とゝ貧て
奈の為ゝひとて奴婢ゝ車に乗るは物れし賊
徒ゝて財寶ありやゝ物のゝ思ふ殺し奪ふに
終ゝ寇の為ゝとゝ成ものゝ僅は謹む事あるゝ
ゝとゝ逸事とい通るゝあるゝとゝあん

程子三不幸とのたまへる語に少年にして高科に登
ぶいこれ不幸なり又父の勢ひに席て美官に
なるこれの不幸なり高才ありて文章に能くす
これ不幸なりといへる語に有るこれ誠めなり
今世の学者先子程子の信仰ちがへる仕
諸とい用ひと子弟を教ゆるふみの此戒訓に
背きていまだ小学のよいたらぬ詩文を学ぶ
事を専要とすいろなる故なん祖学の志低
き人は唯名を求めそ人は隠しと杉のふまあ
べきなるべし

儒者ふさはしくあり腐儒草儒曲儒浪儒鞭賈
教儒顓柱儒迂儒覇儒逆儒猴儒真儒ありて
馮貞白ら質言ふ人ありこれ世の大儒雅儒俗
儒狂儒賊儒といふてあるべきみなり
醫者ふさはしくあるべきこれ莊隠岳の軒岐救
正論より出でる儒醫明醫德醫あり隠醫世
醫僧醫あり名醫時醫流醫あり女醫好醫
濫醫瘍醫あり又叢醫といふい和俗の誤りも
野巫醫かりとりや呪ひ加持低変つて病を療

司馬温公の六悔銘あり富時不謙貧時悔辟裏
狂言醒後悔官行私曲去時悔健時不藥病時
悔幼而不習老後悔德薄不学過后悔常ふ
座壁ふ記して毎日拜ふるべきものなり
類経摂生の語よ無実和者樂天之時與人和者
樂人之俗くあり人生修養の助ある語也
淮南子ふ神越者其言華德薄者其行偽又
曰人無言而神有言者則傷念慮不得目
止念慮則有為ふ主意ありべし
素問ふ言言始者必會於終善言近者必知其

遠道ふ説人乃ふ白なるや
史記ふ孝子の曰聰明深察ふて近死者好んて
人と議ふる者也博雑廣大ふて危其身者
人の惡ふ発く者なり為人子者毋以有己
人乃臣ふていふく己と有ふる毋れ孔子
の世家ふ出ふる此白孝子乃孔子ふ教訓遺
語なりとみくふ何ぞ此白ふ孔子門人ふ語
給ふ六経ふ出ざる事いふふやいたるか
あるべき所あるか
張氏正蒙ふ我と以く物と視ふ何い則我ふ也

道ありて物我は體となるべい則道大なり
故に君子は大なる道を大なる我と大なる
者い狂を免れざるべしといふ今の儒佛の
学者いつまでも高ければやる
皇極經世書ハ人の神明ハ則天地の神明なり
人のこころ熟くい天地と熟くなり不慎哉と
いふ又禮記の禮運ハ人者天地之心也といへ
ども同じく主意あるハ仮令ば但禮記の自意い
仁と主とせるの
書の泰誓ハ天地い萬物之父母惟人い萬物之

靈といふ孔みな上の諸句と一意
詩の蕩之篇ハ靡不有初鮮克有終といふる箴
りもの無て世ハ有ることなしの
同瞻卬之篇ハ哲夫成城哲婦傾城婦有長舌
維厲之階なりといふ女人の奏者ハ戒め
こと傾城の二字是より禍を傾城くい都て
女をいふ色に遊女のこと
ハ古人ハ戒しるハ今の妓女
女人の多言ハ牝鶏の晨をるハ戒めこと
書の多方ハ惟聖と罔念狂とある惟狂と克

今人い作聖といふ学んで不思ふべい罔し思
て不学ふべい危しと云ふべし
同周官に作德心逸して日休作偽心勞して
日拙しといふ誠に慎べきい德なるかな
同秦誓に責人斯無難惟受責俾如流是惟
難哉又云く佞ぞ勇夫射御不違我尚不欲
といふ和の語い己が智に慢ぶる弊いまつ後
乃白い勇に伐る人を戒めて受責如流とは
諫に順ひ過を改る事流水の速く去て還
らざるがごとくに胸臆に過を停ひる事なき

以て実実といふべし佞ぶることを武篇ぶそなるい實
乃ち実なるべしといふ也なるべし
素問に善く天氣言りのい必人に命と善く古と
いふ者い必今に験むといふ此句深意あるべし
人と天と同じ物ざる所なり天地乃化と論ふ所
とは氣氣主ぶて理其中にあり人を論する
所い理を主として氣其命と聽しむ天地の間に
盈ちい皆一元氣也氣乃ち又別に元亨利貞
の四と二つとなるいあり人に在くい精神
作用皆氣ぶて其間に主宰ぶて差ふこと

あらゆるものは理なり此故に理氣人に在ては
二つなれとあるいは是と一つなるはあり〻天地
は無心なれて人は欲あるゆへなりや大儒乃
論なり
文選に瓜田不進履李下不正冠と学者よろしく
慎あるへき語なり又曰木秀於林風必摧行
高於人衆必謗是学者の心得へき句なり
四不聞乃語は誰人もよく忘れなり不與命聞不
與法聞不與勢聞不與理聞といへり
四不久の語あり春寒秋暑老健君寵皆是久
しからさるなり
○人は変ゝ人乃訓へなり
處窮四味あり無事以當貴早寢以當富安
歩以當車晩食以當肉といへり貧小處する
乃教なり
居郷四紛あり德業相勸過失相規禮俗相
交患難相恤此孫昉の四休あり仍四休居
士と号す麁茶淡飯飽即休補破遮寒暖
即休二平二滿過即休不貪不妬老即休
是人日用あるへきの訓戒なり三平二
滿は妻乃嬪こそ以て三平は額とあの頻乃

平らかにして面の皮厚く色白く胸くさり出く大なる乳いつまても悪女といつて
妻い衣食の営とけるふしなくてうるおすの
ふしい飢寒ふしをく助をしくふかをいは悪女
あそも同じとなり嫉妬女い我も執着乃貪
つまなく又他人の犯をべき妬をなく心裏常
小静ふしてまつはく貪妬をして老朝安楽
なるの仏殊勝乃境界なり
道徳乃人といつてもふかのの身躰の穢い
しきふしもうあるいて全形るもなる

殊勝乃法ありとも元俗の人いまく情欲
を離るく事あきゆく形ちなく脱る我
ども孫と夫唐土の事いまく日本乃風
俗禮はよい貴人より土民よりおのの
身體乃陰所ふあるいて人乃用て解去
ひる事あるとく人くるの禮はく是人間を
のはくく誠情なるいとんや聖人も仏も元
夫衆生も貴人ども丘を身體乃穢物いみ
ないてきてれ是ふ外ひくとい人の眼よ
解去ありて其乳とけがさとそれの負無れ

人情なる此人情に渡りきて世わたりくらす人を
有のまゝにとくと見るとも見識もなき人
情と欺きとなしくさきなれどわかれしへの
同紙けりきぬ事私曲のまりの義にわかれ禮に
わかれ孝子は父母乃嘸涜としおかれ自然の
識情なりいえんや身れ陰事をやまに人乃眼は
神明の業精してま禮乃まゝ上なり下品の私
穢に通づき觸しむつかれ求むく人の淫穢と
寝ひなる時はおのが身體の外に氣紙けりすり乃
罪なる又世のまゝが淫穢と何もしく人なりとを

志しなるハ人を穢さとの罪非禮の甚しき者也此故なり
神慮れ或は路次にも世の仲て穢物に逢ひて一日見るハ
思ひ非なけきハ憚ほしとえたん見るなりと申して二つひ
みな時ハ穢を受て神前に憚りあるとそやむ外道
の戒律ある儀式仏法にもし此戒あるもやむや
法華経安楽行品の中れ僧徒乃女人に對して法
を説事ある外世のまゝの膸なる紙あるハ肌をと
を女人にみせしる事あれしハ何にいへんや
身の淫不れ穢物とや思ふて穢不紙世をひかく
おらすハ儒佛神の禮にも背く事とあるべし